

弘前藩日記目録 (十)

弘前藩政史研究会編

〔延宝七年五月小〕

十六庚戌日 晩 夜雨

1、外記登城

十七辛亥日 晩

1、式日寄合

2、15、威釘奉行、桶屋奉行等任命、警詞

6、当年の御登米の吟味申渡す

7、土室村御蔵百姓焚焼失 8、主兵江登城

十八壬子日 晩

1、江戸勤務良好の者に御古上下下さる 2、外記

登城 3、下の切御派取立に出入あつて見分の役

人派遣 4、黒士刑部左江内組の足軽小頭不足

十九癸丑日 晩

1、江戸より飛脚 2、厩町坂上内大破、調査

3、前髪取、名替願 4、子なき藩士死亡知行没

5、小者同志けんか、一人死に、一人斬首

廿甲寅日 晴 風

1、外記登城

廿一乙卯日 晩

1、けんか斬首の首の検査 (他一)

廿二丙辰日 晩

1、式日寄合 2、乳井の多田坊と申す山伏頭、大

行虎越へ理不益致し打撃の由、越山申付

廿三丁巳

1、江戸へ飛脚 2、台所より御用荷物登す

3、外記登城

廿四戊午日 晩 申刻雷

1、御金蔵立合の者任命 2、高倉兵右江門登城

廿五己未日 晩 未申刻雷数発大雨

1、金木村より鶴 2、落石による死亡の者を改め

たところ太刀傷の由申出る

廿六庚申日 午後雨 雷数発

1、別業なし

廿七辛酉日 雨

1、式日寄合 2、藩士病死 3、当年目検の田地六

千六百八十人役 4、江戸より飛脚 5、田袖願

6、縁組 7、菱根竜松代銀について 8、次郎

市登城延引の所、勤務を命ず

廿八壬戌日 晩

1、諸士御礼 2、庄右江門登城 3、大鶴より

初春寸

廿九亥日 雨

1. 涼松院七回忌、江戸浅草深院で二日、長勝寺にて面
- 単に
2. 久保田市陣右江内野幕古
3. 外記登城

延宝七年六月大

一平子日 晴 風

1. 諸士御礼
2. 庄右江内登城
3. 湯殿山へ行く太田寺へ白銀一枚

二二丑日 晴 風

1. 式日寄合
2. 江戸へ御家中出金二百七十両
3. 御用材木諸取扱役任命 曹詞

三丙寅日 晴

1. 別家なし

四丁卯日 晴

1. 外記登城
2. 尾太鉾山の銀子を唐牛与右江内

五戌辰日 卯刻地震

1. 外記登城
2. 在の日損の調査係を泳遣

六己巳日 晴

1. 百沢寺下居堂大破、是分の上修繕
2. 養生の

七庚午日 晴

1. 式日寄合
2. 献上花方に江匠める責敷、荷物

買、昆布、ゆで蕨を登す 3. 小知行の者、知行

差上げたき由、領の通申渡す 4. 渡辺孫五右江

内野幕古

八辛未日 晴

1. 左門登城

九壬申日 晴 風

1. 外記登城

十癸酉日 晴

1. 外記登城
2. 先達洲橋、百沢本堂の修費申付

3. 稱職差出しの百姓に褒美

十一甲戌日 晴

1. 別家なし

十二乙亥日 晴

1. 式日寄合
2. 跡右江内昨日より津田仙庵の茶

服用

1. 外記登城
2. 岡文右江内下の切派立是分のた

め出立 3. 打越橋左江内家末不届にうき越山

十四丁丑日 晴

1. 外記登城

十五戌寅日 晴

1. 恒例諸御礼
2. 庄右江内登城
3. 新城山

十六己卯日 晴

1、久保田市前左江内野稽古 2、左門登城
3、新城山火事鐘火 4、江戸へ飛脚
十七庚辰日 暁

1、式日寄合 2、新材木受取役人任命、誓詞
十八辛巳日 暁申刻雷

1、外記登城 2、登駕前鉄炮六文目筒大丁不足に
のき製作を申付 3、田村市左江内他の屋敷舞借
十九壬午日 暁 巳刻大雨、雷数発

1、当年旱蝗故沖口出米停止申付

2、碓ヶ岡村にて箇通、けんか、男深手を死に、女斬
罪、娘落髪

廿癸未日 暁 午刻地震

1、下の切八幡村で火事 2、外記登城 3、大
内寺湯殿山より帰り、祈禱札持参 4、大鯉より
差上の真瓜、文昌院へ

廿一甲申日 暁 夜中大雨 雷電

1、別条なし

廿二乙酉日 暁 未刻雷

1、式日寄合 2、来る七日の勅進、拝許可
3、八兵征登城 4、高倉兵右江内鎧の足明、登城
5、鷹の獲物進上

廿三丙戌日 暁 未刻 雷電

(記事なし)

廿四丁亥日 暁

1、外記登城 2、鷹の獲物外記進上
3、石渡御殿祝儀、下されものの寛 同和徳御殿、嗣
所御殿同右

廿五戊子日 暁

1、別条なし

廿六己丑日 暁

1、外記、五兵征登城 2、浪江赤五右江内野稽古
廿七庚寅日

1、式日寄合 2、江戸より飛脚 3、五月廿九

日江戸堀町の火事、殿様火元へ御出 4、御隠居
様南條番人召抱えの件 5、家臣病弱喉類

6、駒政は例年七月一日のところ本年は八月一日に行
う由申来る 7、涼松院七回忌につき家臣通塞御

免の件 8、10、袖笛、跡式許可 11、伊左江
内へ宛達わされた馬を替える件 12、御城村大宅

一通工藤次兵征へわたす。 13、寺沢玄兵征の件宗

因、欠港の件 14、御鷹の獲物外記へ

廿八辛卯日 暁

1、恒例諸御礼 2、鷹の獲物外記

廿九壬辰日 暁

1、別条なし

卅癸巳日 暁 夜雨

1、外記登城

延宝七年七月小

月番 盛岡 主障

一甲午日 陽 已刻地震

1、恒例の諸御礼 2、鷹の獲物を外記へ

3、庄右征内登城

二乙未日 陽

1、式日寄合 2、鷹の獲物を外記へ 3、比内

の馬盗人の宿をしに惣助を尋出すべき旨申付く

4、大尊寺次郎市組の木村新右征内病死

三丙申の1 陰 風 申刻大雨及夜中

1、添田儀左征内、久保田市郎左征内野暮古

2、鷹の獲物外記へ 3、只水儀右征内他三名へ寄

合番所勤番を下命 4、外記登城 5、松前兵

庫の家老へ塩蕨、酒樽を遣す

四丁酉日

1、鷹の獲物を外記へ

五戊戌日 陽

1、外記登城 2、3、華秀寺にて何年のかく決事

六己亥日 陰 夜雨

1、鷹の獲物を外記へ 2、外記登城 3、切明

道、待番所へ鉄炮三、鐘二本を置く 4、一人者

の宿をした女須村の者に越山申付 5、右の左吉

弥五兵衛一家と申す者領内追放

七庚子日 雨

1、恒例の諸御礼

2、伊右征内登城 3、白砂前、直具飾及び所々張

番を定法の如く命ず

八辛丑日 (天候好し)

1、江戸へ飛脚 2、親類の病氣見舞願許可

3、渡辺邸五右征内野暮古

九壬寅日 陽

1、鷹の獲物外記へ 2、外記登城

十癸卯日 陽

1、鷹の獲物を外記へ 2、4、北浮田材観音林に

灵芝生える由 (十四本)

十一甲辰日 陽

1、鷹の獲物を外記へ

十二乙巳日 陽

1、式日寄合 2、徳田西新御蔵殿の荒地を屋敷に

拜借したい者に許可

十三丙午日 陽

1、外記、杉山八兵衛登城 2、六月廿四日江戸発

の荷物到着 3、久昌院へ屏風二枚 4、生田

源文丞を五両三人扶持にて召花らる由 5、当春

左京の息女を生みしおむめ殿六月廿一日死去の由

6、江戸へ伺い中の湯治願許可

十四丁未日 陰 夜雨

1、3、何年の如く長勝寺報恩寺、真昌寺、警願寺へ施餼

餽を申付 2、報恩寺へ久昌院仏参

5、進藤庄兵衛組の者昨日病死の由
十五戌申日 晦

1、例年の如く家中の出仕存し 2、小杉村の者新
米差上ぐ、褒美として鳥目一貫文 3、右の新米
を文冒院へ 4、貞昌寺施餓饉の張番仕命
十六己酉日 晦 風

1、外記、左内忌明登城
十七庚戌日 晦 巳刻大雨

1、式日寄合
十八辛亥日 晦

1、久保田市郎左江内野稽古へ
十九壬子日 晦

1、添田儀左江内野稽古へ 2、外記登城
3、鷹の獲物を外記へ 4、只木儀左江内の後藤八
十郎上屋敷拜借頼許可 5、江州の左三右江内と

申す者の赫土水干を許可、赤根米へ加番を遣す
6、江戸より飛脚 7、例年の如く着族献上の由

8、久世大和守勝物にて六月廿五日遠行の由
9、尾太御山より出た銘は御山入用の他、御蔵へ貯置

くべき由 10、尾太御山へ盛岡主膳登山すべき由
11、大湯市兵衛仲の袖前頼許可 12、跡式頼許可

14、邸裏行手代の者病死にへき知行没 15、台所御
用物につき、江戸、国元にて誤合すべき指示

16、御用物諸色上下の儀は以後、一町田理兵衛と田村

藤太夫談じ合ひ、二人の判形なきものは急度改め申
すべき由、役人へ申付くべき旨申来る

廿癸丑日 晦 夜雨

1、渡辺跡五右江内野稽古 2、江戸より飛脚
3、土井能登守今月十日、一万五千石加増、老中仰付

くるの由 4、堀田備中守同右 5、松平因幡
守石川美作守五千石宛加増、能登守跡役并に老中仰

付らるの由 6、八月初日の駒寄せ延引の由申来
る 7、外記、高倉兵右江内登城 8、今月二

日登と米を獲取船出の加賀善四郎の船、秋田領表鹿
沖にて難風に逢い米打木の由、報告 9、江戸、江

州大野寺三右江内へ赤根米にて赫土すり水干を申付
くにのいての覚へ九

廿一甲寅日 昨夜雨及今日刻 晦

1、5、能登守老中役拜命の祝儀として物頭物奉行目
付まで登城(五) 6、進藤庄兵衛昨晩替森より帰

り登城 7、表鹿沖での登せ米、打米漏れの改松
役人を承遣

廿二乙卯日 昨夜雨及今日刻 晦

1、式日寄合 2、中川小隼人組小野と右江内再三
の不届につき小知行組頭へ預く

廿三丙辰日 晦

1、江戸へ飛脚 2、黒土多内家表権四郎下女と又
落のところが窮乏にえるにつき前輩にしたりき出被出

り許可 3、不届につぎ折檻のところ反抗した直
津左兵征家来に蔵と申す者の斬罪を許可

廿四丁巳日 晴

1、外記登城 2、病死の小人二人の御恩没取

3、4、小山縫之丞方より塩崎次郎左征内方へ、当地の
者五十人程秋田領へ入込み杉剪取り、秋田領の者へ
乱暴の由の飛脚 5、右に対する返状の控

6、右の会議のため館山十右征内他一を礎て関へ派遣
廿五戌午日 晴 夜雨

1、明廿六日江戸へ内分全持参の者へ次太夫方への書
状を渡す

廿六己未日 晴

1、四月廿一日鯨ヶ沢を出船し、六月十九日上着の太
阪御米船上乗茶良市兵征内下着 2、外記登城

3、赤田儀左征内、久保田市郎左征内野村古へ

廿七庚申日 晴

1、式日寄合

廿八辛酉日 晴

1、恒例の諸御礼 2、湯治願許可

廿九壬戌日 晴

1、津田弥五右征内野村古へ 2、赤田儀左征内の
湯治願許可

延宝七己未年八月大

月番 盛岡主膳

一 癸亥日 晴

1、恒例の諸御礼 2、伊右征内登城 3、兼ね
て仰出されの条目を家中に読れる

二 甲子日 大雨

1、式日寄合 2、百沢御堂修膳の不足に付き
一日亥未二分死てにくらうこと下命 3、廿八日
由代にて八軒焼失

三 乙丑日 晴

1、大湯市兵征の商気養願許可 2、外記登城

3、湯治願許可

四 丙寅日 晴

1、湯治願許可 2、昨日小山縫殿より塩崎治郎
左征内へ飛札、長本米にて返役の者あり、会議され

正い旨

五 丁卯日 卯刻地震 午刻大雨

1、外記登城 2、左征内明の豊城

六 戊辰日 晴 申刻雷雨

1、伴市左征内江戸へ、用状を差出す

七 己巳日 晴

1、式日寄合 2、六月二日鯨ヶ沢出船の御成水横
加賀善四郎船、六月十、十一日の間、随光み申す鯨
になり、二千俵の内、六百四十俵を打ち、千二百
十六俵を荷倉に、蒲半率を処分し、代金を持参

3、中川小車人組中を召連れ土洲にて火薬の訓練の申

八庚午日 晴

- 1、杉山八兵衛登城
- 2、湯治願許可
- 3、外記登城
- 4、藩士の上屋敷の賃借
- 5、湯治願

九辛未日 雨

- 1、真島市郎右衛門御邦出役下命
- 2、外記登城

十壬申日 大雨

- 1、盛岡主膳、一町田理兵衛、佐々木跡次右衛門をのれて尾太へ

十一癸酉日 雨

- 1、尾太へ飛脚
- 2、歳樽荷宰として登りし者下着

十二甲戌日 晴

- 1、尾太より書状

十三乙亥日 晴

- 1、菱喰二、上新田村甚兵衛差上ぐ、内一を久昌院へ
- 2、昔草一屋大沼袋より上る

十四丙子日 晴

- 1、尾太より主膳ら帰る
- 2、御山にて祝儀として下され物の寛(十二頃)

十五丁丑日 晴

- 1、恒例の諸御礼
- 2、湯治願許可
- 3、左右征
- 4、湯治願許可

十六戊寅日 晴

- 1、江戸より飛脚へ以下十項飛脚の内容

2、伊左江門の所町馬場に於ての責馬匿處のこと

- 3、当年は現米にて下さる面々検見差引無く百石に百俵宛渡すこと
- 4、惣納高渡高渡高を委細書付にて差すべきこと
- 5、高倉兵右衛門の娘の縁組不相成なるも再縁につぎ許可
- 6、縁組許可

城付一封工藤次兵衛に渡す

- 7、主膳組和田十兵衛病死、倅六歳につき知行没取
- 8、大坂の米直段一百六十五文目四分の由
- 9、報恩寺借金、後住の事

10、唐牛寺右衛門御山仕廻次才江戸へ登るべきこと

- 11、盛京国吉に仰付けの長刀、進出未次才江戸へ登すべきこと
- 12、湯治願許可

十七己卯日 晴

- 1、式日寄合
- 2、長勝寺と華秀寺耕春院の出入のことについて岡三ヶ寺(納寧寺大中正庵院寺)と相談、首尾よく解決、(長勝寺華秀寺耕春院庵院)より申渡す

3、右の件に關し、出家中を寄合場に集り寺社奉行より申渡す

- 4、長勝寺耕春院華秀寺居所なき故寺の内に於て片岐に当分罷在るべき由申渡す
- 10、長勝寺御位牌の勤を梅林寺海蔵寺清安寺隣松寺へ而人宛輪番申付く
- 11、什物改役を遣す
- 12、耕春院輪番を疎先寺常源寺安清寺へ申付く
- 13、長勝寺へ使役二名、代る代る相談めるよう申渡す

14、耕春院華秀寺の番人は従前通り手廻りへ申付く

- 15、人出入の儀、今迄停止のところ、三ヶ寺庵院間

の應侶救免につき、前々の通り往來仕りべき由、番人へ申渡す 16、青森検見役人等誓詞

17、検見代役申付く 18、湯治願許可

十八庚辰日 已刻雨及亥刻

1、初詣を上げ、十五文目遣す、久昌院へ、 2、外記登城 3、湯治願許可 4、和田十兵衛の上座敷を同太右衛門拜借申付く

十九辛巳日 晴

1、外記登城 2、湯治願許可 3、縁組許可 4、長崎寺隠居大心の寺社奉行への願の宛(南東師奮の路錢の願) 5、北村弥右衛門病号養生のため湯湯へ

廿壬午日 晴 風

1、去る七日十五の難船につき勝ヶ沢役人より舟川の役人小野久左衛門へ証拠の手形書付を送る

2、湯治願許可

廿一癸未日 晴 風

1、外記登城 2、江戸へ飛脚

廿二甲申日 晴

1、式日寄合 2、本寺助久兵衛不屈につき越山状 3、当年の検見役三十八人誓詞 4、同年の曲代目付十九人誓詞 5、23、大光寺直以下十九ヶ所へ承遣の氏名の寛

廿三乙酉日 晴 夜雨

1、杉山八兵衛登城

廿四丙戌日 岩木川洪水 晴

1、外記登城

廿五丁亥日 晴

1、外記登城 2、小山縫殿丞へ塩崎治郎左衛門より飛脚(さきの杉邊取る者の件について)

廿六戊子日 晴

1、庄兵衛青森より帰郷 2、古川基十郎今朝病死

廿七己丑日 晴

1、式日寄合 2、江戸より昨夜飛脚(次三項) 3、橋雲寺後住につき最勝寺より願の通りに 4、高瀬理助の伴跡式許可 5、江戸にて磯貝新八金五両五人扶持にて召抱える由 6、湯治願許可

廿八庚寅日 大風雨

1、恒例の諸御礼 2、上方御用の吉村場左衛門、吉町守右衛門と同日十一日京都發廿一日江戸着、八月十一日兩人に銀子五枚時服一宛下さる、場中江内京都へ上り、守右衛門は八月十三日江戸發、廿七日着 3、右兩人について登る足輕目付に銀一枚を遣す 4、能登守役替の祝儀として久昌院へ箱着を遣す 5、久昌院より箱有一種を贈様へ遣さる 6、久昌院へ重湯の小袖を進めらる 7、式日願許可 8、縁組願許可 9、江戸半四郎に小倉作左衛門組を仰付く

10、庄右江内登城

廿九辛卯日 晦

1、外記登城

世壬辰日 晦

1、別条なし

延宝七己未年九月大

一癸巳日 晦

月番 盛岡主晴

1、恒例の諸御礼

2、伊右江内登城

二甲午日 晦

1、式日寄合

三乙未日 晦

1、湯治願許可

2、厩町にて騎寄 外渡騎は大渡

にて騎寄の由庄兵征へ申付く

四丙申日 晦

1、外記登城

2、昨日小祝源右江内集提え釘うの

由 3、三郭御門は以後足輕組頭御番相勤むべき

旨申渡す

五丁酉日 晦

1、外記登城

2、毛内有右江内城退登城なし

六戊戌日 晦

1、外記登城

七己亥日 晦

未刻雨夜風雨

1、式日寄合

2、昨日薩崎嵐助袋にて細尾鶴一尾

出る 3、例年の如く大内蔵殿へ重陽の時服二帶三

簪る

八庚子日 風雨初雪

1、江戸へ飛脚

九辛丑日 風雨

1、恒例の諸御礼

2、伊右江内、庄右江内登城

3、自砂前道具飾其外所々の張番先迄の如し

十壬寅日 晦

1、外記登城

十一癸卯日 晦 戌刻雨

1、外記登城

十二甲辰日 晦 風

1、式日寄合

2、七一八日の大風雨にて深浦にて

損害あり注進

3、花町伊兵江戸より下着

4、縁組願許可

5、麁ヶ沢の施頭の忤跡式許可

6、田村江右江内養生のため他出を許さる

十三乙巳日 晦

1、風烈しきため火の用心を家中に融れる

2、育

藤全兵江戸より下着

3、八日の大風にて船被

害、船頭水主十人相果てる由小泊より注進

4、初種若黄鷹一尾、ねんちゅう鳥屋にて並む

5、弥右江内湯元より帰着

十四丙午日 晦 夜雨

1、外記登城

2、初種若黄鷹等を江戸へ登す

3、山片鴉黄鷹一居を親音林新鳥屋にて留む

4、来年銅上竿上方へ登す箱板入付代銀御銀山にて入

させ申すべき由申渡す 5、須藤嘉津右征門を千

廻番人方へ入れる

十五丁未日 雨

1、恒例の諸御礼 2、弥右征門湯治より帰り登城

十六戌申日 晴

1、二番鷹を江戸へ 2、例年の如く長勝寺恭恩寺

御位牌へ茶壺を 3、若黄鷹一居留む

十七己酉日 晴

1、式日寄合 2、若黄鷹一居留む

十八庚戌日 晴

1、外記登城 2、江戸へ台所荷物を登す

3、礎々南奉行、御派吟味役人、大和沢山奉行跡役を

それそれ任命

十九辛亥日 晴

1、外記登城

廿壬子日 晴 申刻雨

1、太破の神明堂の鳥居修覆を申付く、供物を置す

2、西郭御蔵の棟上の祝儀を大工小頭以下へ遣す

3、音請方へ右の祝儀として酒千疋を遣す

廿一癸丑日 晴 風

1、外記登城 2、北村武左征門湯治より帰り登城

3、若黄鷹、若鶴一居留む

廿二甲寅日 晴 風

1、式日寄合 2、弥右征門湯に登城なし

廿三乙卯日 霜 晴

1、杉山八兵衛、高倉兵右征門登城 2、推理様御

影指領の刀一腰を江戸へ差登す 3、尾太御山八

月分出銀二十貫目を唐牛与右征門持参外に歩銀一貫

四百目、上竿二万斤此代二十貫目、鉛二百箇此代二

十貫目は御山に差遣くの由、都合六十一貫四百目の

目録を持参 4、御材木積登せる新保次郎左征門

船今月八日越後五十嵐沖にて破壊のところ、其の浦

助奉行代官庄屋出稽の人足百三四十人にて材木を取

集め申す由飛脚をもつて申来る 5、6、若黄鷹、

若鶴一居留む

廿四丙辰日 晴 夜雨

1、外記登城 2、毛内有右征門忌明登城 3、

伊左征門の贈人を任命 4、徳田町御蔵奉行、御

扶持方蔵奉行を任命

廿五丁巳日 晴 夜雨

1、外記、次郎市登城

廿六戊午日 晴 風

1、若黄鷹留む

廿七己未日 晴

1、江戸より飛脚（以下四頭） 2、若殿、今朝日、

公方様より銅一圀頂戴の由 3、酒井雅泉頭、招

請により殿様出かけ諸事入会の由 4、土屋相模

守大手殿屋、頼土井能登守拜領の由 5、火の用心

につき申来るにつき弘前中残りず火の用心を申渡す

6、若殿お有頂戴の祝儀として一門、重後登城

7、式日寄合

廿八庚申日 巳午刻雪雨

1、恒例の諸御礼 2、三番鷹四連を江戸へ

3、庄右江門登城

廿九辛酉日 晴 夜雨

1、隼一居留む

卅壬戌日 雨

1、外記登城 2、山鴉大鷹一居留む 3、材木

船破損につき、右の材木松のため足輕目付、町人を越

後へ遣す

延宝七年未年十月小

月番 盛岡主膳

一癸亥日 晴

1、恒例の諸御礼 2、伊五江門、庄右江門登城

3、里土刑部左江門他、当春の如く検地御用で左へ

4、若葉鷹一居三馬屋より 5、大鷹、若隼一居を

鷹師と共に江戸へ

二甲子日 晴 夜風雨

1、式日寄合 2、柏木村百姓家焼失

三乙丑日 雨

1、別条后し

四丙寅日 晴

1、鷹の獲物を外記へ、外記御礼登城

五丁卯日 晴

1、別条后し

六戊辰日 晴 夜大雨

1、外記、高倉金右江門登城

七己巳日 晴 夜雨

1、式日寄合 2、石渡徳田町御蔵奉行、御横目普

詞 右請松条目一現米御蔵並御扶持方蔵江入候御米

者蔵上米の通にいたし御百姓より出させ、一年俵御

年具は如例種俵入倉為登米可致候 御百姓の儀茂御

家中元被下之續の外一年俵可為同然旨御郡奉行江申

渡

八庚午日 雨

1、江戸へ花脚 2、杉山八兵江門登城

九辛未日 晴

1、外記登城

十壬申日 晴

1、別条后し

十一癸酉日 晴

1、鷹の獲物外記へ 2、隼一居菱沼中島より

十二甲戌日 晴

1、式日寄合 2、新屋四五左江門病死

3、金銀米需用の家中之者に急度上納を申渡す

4、ろうそく屋長兵衛孫右江内三両二人扶持を(他

一) 5、中川小羊人組小野七右江内不届につき、

弘前五里木の追放、小羊人伝授の秘法行申向敷候、

勿論他言不致他領江出申向敷旨申渡す

十三日亥日 晴

1、外記登城 2、銀山金こし祝儀

十四日丙子日 晴

1、喜支丹奉行支配太田甚五兵衛並小知行組頭神藏右

江内皇和七右江内御勘定之者を申付ける

十五日丑日 晴

1、恒例の諸御礼 2、伊左江内庄右江内登城(他三

十六日寅日 雨

1、別茶荷し

十七日卯日 晴 晴

1、式日寄合 2、当夏より沖口出米停止を申付く

る、高橋より高崎迄の道路の橋、箇所銀にて仕置申付

く

十八日辰日 霜 晴 夜雨

1、唐牛与右江内今日江戸へ

十九日巳日 霜 丑刻 雪

1、献上塩江戸へ(他三)

廿日午日 昨夜五刻雪今及巳刻

1、外記登城(他一)

廿一日未日 晴

1、外記並兵右江内登城 2、材木直段一割、家産

段二文目上る

廿二日申日 晴 夜雪

1、式日寄合 2、鯨ヶ沢より初はたき

法度の魚鳥を比内へ盗出儀の取締り強化策

各蔵横目警詞 5、江戸より飛脚 6、吉村場

左江内江戸より下着 7、当領の家産を望む者が

あつて仰付ける 8、東廻材木船仙台沖にて破損

の由 9、伊左江内へ合力米 10、玄祥の御義

例年の地く若殿拜領、右のうち久昌院へ 11、酒

井右京與方去月廿三日男子丑産 12、伊左江内家

来佐守右江内方へ仲向を登らせる件について

13、中川小羊人組小野七右江内事親兄弟の中之儀を以

由申来り申渡す 14、長崎寺隠居大心帰国願の通

仰付け、路銀駄賃相応申付く 15、家督相続許可

16、藩士縁組許可 18、井上玄有病氣御禮願許

可 19、献上の塩能塩増進登せる件 20、江戸

より京都へ登つた者及役人への特別手当はなから

(他一)

廿三日酉日 晴

1、主膳・孫右江内が使者となり、伊左江内へ復むへ

き旨を申上れる

廿四日戌日 雪

1、外記登城（他二）

廿五丁亥日 晦 夜雪

1、外記登城（他一） 3、徳才子村百姓より出火

廿六戊子日 （天候なし）

1、長勝寺隠居大心今日上方へ登足

廿七己丑日 （天候なし）

1、式日寄合 2、飛脚二人江戸へ 3、当春の

校地について

廿八庚寅日 晦 午刻雨雪

1、恒例の諸御礼（他一）

廿九辛卯日 晦 雨雪

1、外記登城 2、庄兵征味呪齋森より 3、青

森より白鳥二を上げる、褒美米五斗六升 4、長勝

寺耕春院華笏寺相諾役番差引、重酒の札番人は只今

の通り

延宝七己未年十一月大

一壬辰日 未刻雨

1、恒例の諸御礼（他二） 4、外ヶ浜より初舞、久

昌院へ 5、三村九左征門病死

二癸巳日 雨雪

1、式日寄合

三甲午日 風雪

1、江戸より荷物到着 2、久昌院へ茶壺、京柿

3、素庵へも同じく 4、外記へ京柿 5、中小

姓工藤安兵征病氣、勤務出来ず永の御暇願、許可

6、御内分銀并に九月の御家中出銀十四貫目金子七十

両差し登す

四乙未日 雪

1、外記登城 2、素庵へ例年の如状五十俵

五丙申日 晦

1、別条なし

六丁酉日 晦

1、伊左征門次男壽津之助味夜死去 2、外記忌の

ため登城せず

七戊戌日 晦

1、式日寄合 2、江戸より飛脚 3、当春召直

の御牛廻、先例の如く小普請鉈綿花役差引かる

4、佐竹右京へ使者 5、縁組許可 6、外ヶ上

磯うたの番所申付べきにづき庄兵征寛分の事

7、三馬屋沖口番人、春から秋まで、冬はなしのどこ

ろ、四季通年置く事 8、末根沢番所柵など入念

の事（右大ヶ条 飛脚より）

八己亥日 雨 子刻山鳴夜雨

1、八兵征兵右征門登城 2、味呪の飛脚申来る御

用申渡す 3、谷口徳兵征昨夜下着

九庚子日 晴 夜雨

1、別条なし

十午五日 凡雪

1、外記登城

十一壬寅日 雪

1、外記、左内、次郎市、兵右征内登城 2、江戸

へ飛脚

十二癸卯日 雪

1、式日寄合 2、来る十八日追鳥指申付、組中支配へ申渡すように頭へ申渡す

十三甲辰日 雪

1、外記登城 2、朱土十駄差登す 3、馬盗人三人、斬罪申付ける 4、森宗長刀三振、鎧一本たぬし置い

十四乙巳日 晴

1、黒土刑部左征内、検地終りて帰る 2、江戸より飛脚 3、家中雑借有る面、上納申可旨、勘定所江申渡す 4、久保田市郎左征内、替市之助、田細申渡す 5、十部御法事 長勝寺に於て年内十二月十四日五百部にても、七百部にても読経申付、相残る所は正月十四日迄可申付申来る 6、矢野玄与伴直悦医直稽古のため上方へ差遣申渡由願の通申来る

十五丙午日 雪

1、恒岡の諸士御礼 2、外記登城 3、佐竹右京大夫様へ使者 4、佐竹家家老達へ時辰その他

を贈る 5、弥五右征内、留守中御宮火事番大組より相勤申す可き旨申渡す

十六丁未日 雪

1、外記並兵右征内登城 2、追鳥指の節狩場における諸注意(二) 4、黒土刑部左征内家来角右征内、刑部左征内の女房に対し悪言外仕形あり、刻首申渡す

十七戊申日 雪

1、式日寄合 2、上柏木村源十郎と申す者乳井長太夫宅へ盗入にのき、長太夫にとりける 3、藤崎村兵三郎不届にのき追放 4、髪結百兵衛、飯詰村おとと申者、不届にのき礎ヶ岡横目所に越山状申渡す 古科人明日申渡す

十八己酉日 晴

1、悪戸袋に於ての追鳥指申付の人数、統計二千二百八十五人、その他

十九庚戌日 晴

1、2、伊左征内尾明登城 外記登城 3、十七日夜飯詰村派、家焼失

廿辛亥日 風雪

1、外記登城 2、湯治願許可

廿一壬子日 雪

1、外記登城 2、献上雄子並寺々江遣す雄子至今日登す

廿二癸丑日 雪

1、式日寄合

廿三甲寅日 晴 霽

1、外記、八兵征登城

廿四乙卯日 雪

1、外記登城 2、献上並に寺々に遣す塩齋登す

廿五丙辰日 雪

1、挂光院二十五回忌法事の儀、江戸津沼院江仰付、御当領に於て無用有ら、其の日、寺庵中集合御経読誦仕可き由仰下され候、今日報恩寺に於て流経執行申付く 2、久昌院、法親寺へ仏参、お供如何

廿六丁巳日 雪

1、外記登城

廿七戊午日 雪

1、式日寄合 2、方々へ遣す塩齋、台所用とも今日登す 3、渡辺弥五右江内秋田より匠事持参、馳走の上、種々下され物 4、佐竹家老梅津茂右江内病死の由

廿八己未日 晴

1、恒例の諸御礼 2、伊左江内庄右江内登城

廿九庚申日 雪

1、千部法事につぎ明日より長勝寺節付馬廻兩人足輕三人に番申付く 2、丑刻長勝寺以呂出火、久保田市郎左江内他十五人の重臣早速罷越鐘火

3、寺廻非番の面々火本に出て申さるべき由、外記、

左内へ申越す

卅辛酉日 雪

1、外記登城 2、江戸へ飛脚、

延宝七己未年十二月大 月番 盛岡主膳

一 戌日 雪

1、恒例諸御礼 2、伊左江内、庄右江内登城

3、長勝寺に於ける千部供養執行の詰入

二 癸亥日 雪

1、式日寄合 2、明日よりの千部供養につぎ、相候、火の用心に対する注意 3、法事中は助中、

置衣廻番を申付ける

三 甲子日 晴

1、信校公玄十回忌千部法事、長勝寺に於て、今日より執行、僧数百十人、内三十人、大小役、病氣差合差引、八十三人、惣奉行北村弥右江内

2、町奉行、勘定奉行、毎日御寺江相詰の事 3、4、伊左江内、庄右江内参詣、一門参詣 5、千部法事委細意帳あり 6、尾崎村無縁の者、徳左江内

先日晦日家焼失

四 乙丑日 巳午刻雨

1、外記登城

五 丙寅日 晴 昨夜中雨午刻霽

1、別家なし
六丁卯日 雪

1、門前の橋の雪の片付に困して（他一）
3、徳田町御蔵横目等普請

七戊辰日 風雪

1、式日寄合 2、村田三郎右征内、伊勢屋大右征
内方より買掛のある人々は前から申渡してあるが、
此の耳の替には半分を急度返えすように

八己巳日 雪

1、八兵征、兵右征内登城

九庚午日 晴

1、別家なし

十辛未日 晴

1、外記登城

十一壬申日 晴

1、外記登城

十二癸酉日

1、式日寄合 2、主膳、弥右征内に代り長勝寺へ

弥右征内明日の城内煤掃につぎ帰る

十三甲戌日 雪

1、煤掃につぎ弥右征内登城

十四乙亥日 雪

1、江戸へ飛脚 家中出銀戌台百五兩、江戸買掛金銀
台所より飴子を登す 2、去る三日よりの千部荒

經の由八百四十部今日迄相済み 3、長勝寺にて
御誦り、火の田北のため、手廻り三人今日より正月

十一日迄

十五丙子日 晴

1、恒例の諸御礼 2、一内登城

十六丁丑日 晴

1、前髪取懸許可

十七戊寅日 晴

1、式日寄合

十八己卯日 晴

1、外記、北村武左征内登城

十九庚辰日 晴

1、在方小知行、足輕等身上罷成ざる由、知行善上度
き由につぎ許可

廿辛巳日 雪

1、外記、兵右征内登城 2、久昌院より年男に例

年の如く時服等を看光方までつかわす

廿一壬午日 晴

1、2、江戸より荷物等下着 3、久昌院へ歳暮の金

品各種、書面 4、御用の盾五十本下着（他一）

廿二癸未日 雪

1、牛深村肝煎弥右征内より銀一両差上ぐ 3、江

戸より飛脚 4、殿様少々気のところ慥み居る
由 5、京図の儀、近江様から、殿様の思召しの

通り結構よく、下され、玄蕃等京都より首尾よく、
今朝日江戸着、7、8、久昌院へ御書一通、何年の

如誓一本 9、岡文左江門去年寺社奉行仰付られ
郡奉行御赦免につぎ、田山藤左、江門一人にて相勤
めるより申渡す 10、田山藤左江門娘の縁組願

11、尾太御山へ他國の日用人足入れる儀 12、台所

鷗の塩仕る儀赦免申来由 13、14、縁組願、跡式願
許可 15、来年年頭の御礼、当春の如く、太刀、

折紙、長上下、青銅にて御礼の規式を守るように(へ
他一) 16、御納戸相役、当分申付の儀 17、

三村九左江門儀々、御奉公申上候故、在中御扶持、
切米尊娘下置る旨申渡す 18、田村藤太夫御用人

役中支配の面々 19、小川定右江門内戸米取五兵衛
進物役赦免(他一) 21、川村直拾病受御腰頼許可

(他一) 23、江戸より飛脚、殿様の病氣見廻りと
して公方様より大鯛二枚 24、殿様の御月氣平復

25、拝領の鯛一枚、久昌院へ
廿三甲申日 雪

1、公方様より鯛舞領の祝儀、一内以下登城 2、
久昌院へ密柏 3、4、素庵へ時服、密柏、白銀二

十枚(他一) 6、何年の如く寺社方歳暮の御礼
(武者在御番所にて記帳

廿四乙酉日 晴

1、寄合所へ各、出座 2、伊左江門子綱之助死去

3、吉町守右江門昨夜病死

廿三丙戌日 雪

1、大御納戸役吉崎与次右江門当分の相役として本間
太兵衛に申付ける

廿六丁亥日 雪

1、江戸へ飛脚

廿七戊子日 晴

1、別業なし

廿八己丑日 晴

1、恒例の諸御礼 2、例年の如く、大道寺次郎市
より留守居組頭まで歳暮の祝儀差上ぐ、熨斗目半上

下 3、外記、左内、冠故登城せず 4、昨廿

七日尾太銀山の小屋三十二軒つぶれ三人死亡、廿二
三人怪伐

廿九庚寅日 晴

1、年頭御礼の書院の給仕係、新邸の子供番古方を申
付ける 2、次郎市組三上津兵衛屋敷なき故三村

九左江門上屋敷当分拝借申渡由、申渡す

世辛卯日 晴

1、外記、左内忌明登城、歳暮祝儀樽代

延宝八庚申年正月小

一壬辰日 晴

1、22、正月行事(二二)

月番 盛岡主膳

二癸巳日 雪

1、各組、組外の土構代達上 2、江戸へ飛脚

3、張番元日の通り

三甲午日 雪

1、5、正月行事(五) 6、13、同院諸初(ハ)

四乙未日 晴

1、嘉例の如く年縄を年野納める(他一) 3、素巻

御出(他一)

五丙申日 晴 酉刻霰

1、別条付し

六丁酉日 晴

1、寺社方御礼 2、お花畑戸雪、厚さ三尺一寸

3、節分の大豆はべし、七種の御祝儀

七戌戌日 晴 夜雨

1、七種祝儀 2、伴左江戸辰明年始御礼

八己亥日 吹雪

1、左内組諸苗孫右江戸旧冬十二日晦日病死

九庚子日 雪

1、江戸より飛脚 2、騎様尺部李復 去月十五日

登城の由 3、23、両宮勘右江戸、堀伝左江戸、

水村空之助三人、用人へ仰付られ支配書付の寛(ハ)

二一、24、28、同じく申付の寛(五) 29、40、

諸御役等(一二)

十辛丑日 雪

1、別条なし

十一壬寅日 雪

1、10、書院付、岡に於て具足の御祝(一〇)

十二癸卯日 晴

1、江戸より飛脚

十三甲辰日 雪

1、今朝、八幡吉兆間 2、来申年(去年よりみて

今年、の江戸詰の者達の寛(昨日の飛脚による、ハ

一八項目)

十四乙巳日 吹雪 風

1、十部法事首尾能く今日相済む 2、江戸へ飛脚

3、吉例の如く今曜年男、規式の如く勤む

十五丙午日 晴 申刻雨

1、恒例の諸御礼 2、縁組許可

十六丁未日 晴 昨申刻雨及今辰刻 岩木川洪水

(記事付し)

十七戊申日 雪

1、式日寄合

十八己酉日 晴

1、外記登城 2、藩士の前髪取願許可 3、縁

組許可

十九庚戌日 晴

1、江戸へ飛脚 2、十部法事につき左京より香菓

3、最勝院病死

廿辛亥日 大風 雪

1、外記登城 2、湯治願 養生願許可

廿一壬子日 雪

1、前髪取許可 2、十六日の洪水にて五所川原、

河除土居十間程破れた由 3、外記登城

4、江戸より飛脚 5、慶徳例の如く、二日登城（

江戸城）時服拜領 6、三日吉岡の諸初、左京、

安女御出の由 7、久昌院へ年始の祝儀鳥目千疋、

二種一荷、目録 8、若殿様、主殿より久昌院へ

年頭祝儀 9、歩行五人不足、早、差の付すよう、

10、土井能登守、旧職廿八日四品に任ぜらる由

11、矢野十右衛門、御目付仰付けらる 12、小川兵

左衛門、高五十石にて召托の由 13、21、長尾左

右衛門、小幡孫八郎中、小姓に召出さる由（他九）

22、素庵、伊左衛門、庄右衛門へ御書 23、江戸藩

士々落、此方へ来たりは攝取よう

右三十ヶ系飛脚にて

廿二癸丑日 晦 夜雪

1、式日寄合 2、御戴奉行代の管詞（他一）

4、本村の直に四十四、五の男の死儀、村の諸役立合

見届、代官に届ける

廿三甲寅日 風雪

1、久昌院へ年頭の祝儀の品、届ける（三）

4、八兵衛登城

廿四乙卯日 晴

1、外記登城 2、添田儀左衛門の古懸の日唄参詣

許可 3、牧嘉達右衛門の知行所行き許可

廿五丙辰日 晴

1、佐竹右京の領分の湊役人、船頭、東廻り航路の様

子をききに来る

廿六丁巳日 晴

1、外記登城 2、台所用の荷物を登せる

廿七戊午日 晴 風

1、式日寄合

廿八己未日 晴

1、恒例の諸御礼 2、3、庄右衛門、外記登城

廿九庚申日 晦 雪

1、江戸より飛脚 2、公方様へ若殿より例年の通

り献上の由 3、公方様より例年の如く若殿へ與

服、菓子等を下さる そのうち呉服一を久昌院へ

4、右祝儀のため一門以下登城 5、十一日玄藩へ

家老御仰付、諸士玄藩宅へ罷出 6、12、藩士加

増、仕命（七） 13、牛廻、馬廻各、十三日上着

の通りにせよ 14、伊左衛門の跡は下向迄、只今

の通り 15、陣式願許可 16、書森万右衛門儀

詰籠舎の件（他二）

延宝八庚申年二月大

月番 盛岡主膳

一辛酉日 暘

1、恒例の諸御礼 2、殿の三十五才、若殿の十二

才の祝儀、元朝のように蓬萊に鏡餅を飾りて行く

3、4、伊左征内、外記登城 5、公方様より十日に

若殿がいたいた呉服のうち一つを父昌院へ

6、西の幸の平型襦袢二尺六寸 武者屯前二尺一寸

二壬戌日 辰刻雨 晦

1、式日寄合 2、前から仰付の条目殿守の融を家

中へ達す

三癸亥日 暘

1、江戸へ飛脚

四甲子日 晦 夜吹雪

1、外記登城

五乙丑日 風

1、外記登城

六丙寅日 暘

1、一年作渡方の誓詞、諾産敷二の向に於て行く、十

四名 2、今十、十一日の外馬場の除雪作業は玄

米の士は百石につき一人、地方の士は百石につき二

人宛出すこと、内馬場は別人に申付ける、当流の衆

方も残らず、人足を出すように触れる 3、内馬

場は掃除の者三人に雪きらせる 4、外馬場の雪

切り奉行任命

七丁卯日 晦

1、式日寄合

八戌辰日 雨

1、外記、八兵征登城 2、紙漉沢村佐藤市右征内

田屋焼失

九己巳日 晦

1、別条存し

十庚午日 暘

1、次郎市登城

十一辛未日 晦 末刻雨及終夜

1、当御町酒僱殺之覚

一御銚子龜壁前戸 一升代 八分

一上諸白 一升代 七分

一次諸白 一升代 五分

一次酒 一升代 四分

十二壬申日 吹雪 夜雪及一尺許

1、式日寄合 2、江戸より飛脚

十三癸酉日 晦

1、外記登城

十四甲戌日 晦

1、外記登城

十五乙亥日 暘 風

1、恒例の諸御礼 2、伊左征内、庄右征内登城

十六丙子日 暘